

平成22年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 柳澤 康信

本日ここに、平成22年度入学式を挙げるにあたり、愛媛大学を代表して、皆さんの入学を心から歓迎いたします。全国各地から、そして、外国から、あわせて1,986名の若々しい皆さんを愛媛大学の新生として迎えることができました。

この良き日のために、ご多用にもかかわらずご臨席を賜りました加戸愛媛県知事をはじめ各界を代表するご来賓の方々、愛媛大学校友会・同窓会代表の皆様、名誉教授の先生方に厚くお礼申し上げます。そしてまた、ご列席いただいた新生のご家族、そして関係の皆様にも厚くお礼申し上げます。この良き日を迎えられ、お慶びもひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

さて、新生の皆さんはこれから愛媛大学での生活が始まります。皆さんの胸の中には大学生活に向けて、夢と希望が大きく膨らんでいると思います。大学での4年間、あるいは6年間は、皆さんが責任ある自立した社会人となるために、自分の生き方を見つめ、真の自分を発見し、生きる力を身につけるためのかけがえのない期間です。大学での日々の過ごし方によって、皆さんの将来は大きく違ってきます。皆さんがいま心に抱いている初々しい期待感・緊張感をこれからもずっと忘れずに、有意義な大学生活を送ってほしいと思います。

愛媛大学は、昭和24年に新制国立大学として出発し、6年前の平成16年に法人化し、昨年11月に60周年を迎えました。この間に、愛媛大学は着実に発展し、世界的な学術研究拠点としてのみならず、地域の「知の拠点」として、社会の知的・文化的水準の向上に貢献するとともに、さまざまな分野で多くの優れた人材を世に送り出してきました。平成17年に制定した「愛媛大学憲章」では、「学生中心の大学」「地域にあって輝く大学」の実現を目指すことを宣言しました。その理念の下で、これまで教育・研究・社会貢献・国際貢献においてさまざまな先進的な取り組みを行い、いずれの分野でも着実な成果を上げ、愛媛大学は地方の大学で最も注目される大学のひとつになっています。新生の皆さんは、この愛媛大学に入学したことを誇りに感じて、胸を張って大学生活をスタートしてほしいと思います。

さて、皆さんは大学でどんな能力を身につけようと思っていますか。ここで少し立ち止まって、大学で学ぶ意義を考えてほしいと思います。

愛媛大学では、一昨年、各学部のディプロマ・ポリシーを定めました。まだ聞き慣れない言葉かもしれませんが、ディプロマ・ポリシーとは「学生が卒業時に身につけていなければならない能力」を示した達成目標のことです。すなわち、大学の学位を授与さ

れるためには、最低限どのような能力の修得が必要であることを示したものです。このディプロマ・ポリシーは各学部の履修案内や大学のホームページで見ることができますので、ぜひ一度は自分の学部・学科のディプロマ・ポリシーに目を通して下さい。

言うまでもなく、大学では、高校までと質的に異なる高度な知識を獲得することが求められます。どの学問分野でも、そこには長い間に人類が行ってきた研究や実践や思索によって歴史的に蓄積されてきた知識の体系があります。ですから、自分の選んだ専門分野については「知識の体系」という深い森に分け入る必要があります。そこでは、深さを追求する体系立った学びが求められます。深い学びとは、新しい知識をどのようにして創造するか、そのために必要とされる基礎的な知識は何か、さらにどのような方法で真実に到達できるのかなどを学ぶことも含んでいます。

しかし、それだけでは十分とは言えません。それと同時に、視野を広げるために幅広い知識を獲得することも大切です。今日の社会では、個々の知識はすぐに古くなり陳腐化するので、必要な時に学び直さなければなりません。一生、勉強することが求められます。そのためにはなるべく自分の「間口」を広くしておくことが大事です。日本では、高校の早い段階で文系、理系に分かれるという悪しき伝統があり、そのため自分が履修しなかった科目に関する知識を知らないのは当たり前と考えたり、その分野に背を向けたりする傾向があります。文系・理系を問わず、幅広い分野を積極的に学ぶという姿勢も大学の学びのなかでは大切です。

もうひとつ是非とも皆さんに大学時代に高めてもらいたい能力は、「人間関係を構築する能力」、すなわち、集団の一員としてうまくやっていける能力です。今の若い人はとかく少数の人とだけつき合い、しかも、密な人間関係を避ける傾向にあります。そして、多くの若者は「自分は友達を作るのが苦手だ」と感じています。これは、家族やごく限られた人だけと緊密な人間関係を結びながら成長してきたという社会システムのあり方に原因がありそうです。

しかし実際には、「人間関係を構築する能力」はきわめて基本的で、かつ本質的な能力です。しばしば、「人間は社会的動物である」という言葉を耳にします。人類の祖先は何万年、何十万年の間ずっと群れ生活、集団生活をしてきたのですから、その子孫であるわれわれが社会的であるのは当然のことです。社会的であることはわれわれの遺伝子に深く刻まれ、われわれの本来的な性質であるのは間違いありません。

私がここで言う「人間関係を構築する能力」の中にはさまざまなタイプの能力が含まれています。リーダーシップやコミュニケーション力や協調性などはいずれも「人間関係を構築する能力」に含まれます。このような能力は企業が新入社員に求める能力のうちで常に上位に挙げられます。

今日、私が強調したいのは、これまであまり注目されてこなかった能力、フォロワー

シップ、です。フォロワーシップという言葉は一般にはまだ十分認知されていませんが、リーダーシップと対になる言葉です。リーダー（先導者）に対するフォロワー（従う者）です。フォロワーシップとは、人が集団で仕事をするとき、リーダーに従う者に求められる資質や行動原理のことです。これまで、リーダーシップの重要性は数多く語られてきましたが、人への従い方の重要性はほとんど語られることはありませんでした。人が集団の中で協力して仕事をするとき、フォロワーシップがあってこそリーダーシップが成立することを忘れてはなりません。

良いフォロワーの要件として三つの能力が挙げられます。一つ目は、リーダーが語っているビジョンの正しさと実現可能性を評価する能力。二つ目は、そのビジョンの実現のために自ら関わろうとする能動性。第三は、常に批判的にリーダーを評価し続ける冷静さです。この三つの能力を兼ね備えたフォロワーは、特に集団が難しい目標を達成するためには欠かせない人材です。少し前に NHK で人気番組だった「プロジェクト X」は一般にはリーダーシップの物語として捉えられていますが、しかし見方を変えれば、フォロワーシップの物語とも言えます。視聴者に大きな感動を与えたのは、リーダーの素晴らしさもありますが、リーダーのビジョンを実現しようと奮闘するフォロワーたちの姿だったとも言えます。これまで我が国が先進国として成功できた要因のひとつとして、有能で健全なフォロワーが数多くいたことが挙げられるでしょう。我が国の将来を考えた時にも、フォロワーシップという能力にもっと注目する必要があると思います。

リーダーシップやフォロワーシップなどの「人間関係を構築する能力」は、社会的動物としての人間が潜在的に備えている能力ですが、しかし、それを発揮する機会が少ないと発達しない能力だと考えられます。この能力を高めるためには、集団の中でさまざまな立場で経験を積むことが大事です。私が、今、新入生の皆さんに勧めたいのは、大学生活の中でこの能力を高めるための機会を多く作ることです。具体的には、体育系サークル、文化系サークル、あるいは、ボランティア・サークル、NPOなど学内あるいは学外の団体や組織に積極的に参加することです。愛媛大学にはいろいろなタイプの団体がありますが、少なくともその1つに加入して、先輩や同輩そして教職員と一緒に活動する場を確保することです。「人間は社会的動物であること」、そして「人間はひとりだけでは生きて行けないこと」を肝に銘じて、大学生活の第一歩として、仲間作りや友だち作りに取り組んでもらいたいと思います。

愛媛大学では、現在、皆さんがさまざまな主体的活動、協同的活動ができるよう環境整備を進めています。皆さんの大学生活が「人との交わり」の中で充実したものになることを心から願い、式辞といたします。